



『山、市場、製材、建具店など』

通年コース第十・十一開催報告「見学・枝打ち」



小屋横の林。セミ人間が一杯

年に一度、保科先生が講師に来てくれます。枝打ちの講義の後、ぶり縄を作って木登り練習。小屋の横の林にセミ人間たちが勢揃いし、日頃の運動不足もなんのその、気は実年齢よりも随分若い塾生の皆さんが、昔取った杵柄でヤマネのように敏捷に登り、蝶のように優雅に降りようとするのですが、中にはイントラも冷や汗をかく、夏の終わりのセミのように危うく落下しかける方もいて、やはり木登りは一日にして成らずです。平らな所ばかり歩



枝下高は半分弱で枝は生き生き

いている現代人の宿命で、股関節の柔軟さや強靭さが足りず、もう猿だった頃には戻れないばかりか、三丁目の腕白坊主にも戻れませんでした。毎日きちんと体を動かす事は大切です。午後は、独自の保育法でカラマツを育てて半世紀、保科先生の、丁度1963年植栽で、50歳になった展示林を見学させていただきました。林道から標高差で1000mほどの間、なんと歩道がきれいに補修されているではありませんか。例えば、夏の間に



樹木が水を上げなくなるのはもう少し先なので、アカマツなどの入荷がほとんどない状態

直したとすることで、足腰がマイチのわれわれのために歩きやすい歩道にしてくれていたのでした。頭の下がる思いです。試験区のカラマツは平均樹高が27m近くにもなっており、本数は200本/ha程度なので、相対幹距比は25くらいでしょうか。生き枝も樹高の半分程度は確保されていて、やはり只者ではないカラマツ林でした。

一日目は市場、製材所、建具店、ストーブ屋さんと見学させていただいて、山から出した木がどのように流れていくかを勉強させてもらいました。長野県森連が行っている伊那木材センターでは所長の高見さんが最近の市況や入札方法などを説明してくださいました。

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川 清志 題字 島崎 洋路

先生の木登り道具



で、土場は少し淋しい。相変わらず安値安定の市況で、右下の模擬入札の指値を見るまでもなく、材木って何でこんなに安いんだらう、というのが実感です。午後に伺った有賀建具店は、作業場にスズメバチの巣があるので、本宅での説明でした。親方の恵一さんは4回刺された、とのことですが、意に閉せず。ここは八手やツバメが巣を作っても取り除こうとせず、人が不便や危険を甘受していま



ヒノキ柱材の極山の前で

木取りのやり方で取れる板が違



夕方に向った有賀製材さん、地元材料を使った家づくりをしている数少ない工務店です。ペチカの設置をおすすめしてい

す。ちよつと真似できません。そして、木や板に関する面白いお話をたくさん聞く事が出来ました。「広葉樹は素性の良いものほど一次木取りで狂う事が多い」など、見かけによらないのは人も木も同じですね。おしゃれな家具に囲まれて、奥様の手作りケーキと美味しいコーヒー、幸せな時間でした。

Table with 5 columns: 極番, 出品, 今回落札, 落札者, 所長の指値. It lists lumber specifications and prices.

本日の落札値。高値お買い上げ



楽しいペチカ

参加者/井澤さん、金児さん、小林さん、高野さん、滝川さん、中川さん、中村さん、原さん、松山さん、守屋さん、スタッフ/川島、早川、松岡

見学・枝打ち 9月27・28日(金・土) 通年コース第10・11回



南アルプスの麓、薪の海

『チェーンソーはしっかりと固定して』

手で切る鋸はギコギコと前後に動かさないと切れません。でもチェーンソーは前後に動かしても切れるわけではありません。チェーンソーは実はエンジンで動かす鋸ではなくて、鉋(かんま)だったのです。チェーンにた

くさん付いていて、高速で回っている刃は小さな鉋の刃なのです。受け口の斜め切りが曲がってしまつ、とか追いがちゃんと倒す方向を向かない、というのは知らず

知らずにギコギコやってしまつたり、チェーンソーがぐらぐらと固定できなかったりするたためな

です。上手な人の切り方を見てみると、チェーンソーはしっかりと固定されています。そして切れた分だけ前に進む、というやり方で、追いつきも、玉切りも、枝払いでも同じ事です。固定できない方の枝払い

は、切り口がデコボコです。技が上達していく過程はリニアではなくノンリニアです。今までできなかった事がある日ふとできてしまふ。いわゆる壁を乗り越える、ということですね。そしてそのための早道は、チェックポイントをいくつか持っているか、という

ことではないでしょうか。のんびんだらりとチェーンソーを使うのではなく、自分の持っているチェックポイントを一とつずつ確認しながら伐倒をしていけば、失敗した時にも容易に修復ができるようになるでしょう。

私は木工職人です。一口に木工といえども、製作物やその制作方法など多岐にわたりますが、私の場合、木の匙に製作を絞っています。元々は長野県木曾にある上松職業訓練校にて家具製作の勉強をしていました。卒業後、目当ての工房への弟子入りがうまくいかず、アルバイト生活を続ける中、人に頼まれて木のティースプーンを作ったのがそのきっかけでした。家具製作を学んでいたときには、匙やお皿など木の小物にはまったく興味を持ってませんでした。しかし、そうに思えてなかなかれつという良いものができあがらない難しさとおもしろさを感じることにになりました。それ以来もつと良いものができると匙にこだわり作り続けています。匙の材料には国産材から外材まで、色々な樹種を使っています。家具と違つて大きな材木を必要としな



倒したサワラの検知



しっかりと固定して玉切り練習

毎日メンテナンスと目立ってチェーンソーがぐらぐらと固定できなかったりするたためな

です。上手な人の切り方を見てみると、チェーンソーはしっかりと固定されています。そして切れた分だけ前に進む、というやり方で、追いつきも、玉切りも、枝払いでも同じ事です。固定できない方の枝払い

は、切り口がデコボコです。技が上達していく過程はリニアではなくノンリニアです。今までできなかった事がある日ふとできてしまふ。いわゆる壁を乗り越える、ということですね。そしてそのための早道は、チェックポイントをいくつか持っているか、という

ことではないでしょうか。のんびんだらりとチェーンソーを使うのではなく、自分の持っているチェックポイントを一とつずつ確認しながら伐倒をしていけば、失敗した時にも容易に修復ができるようになるでしょう。

私は木工職人です。一口に木工といえども、製作物やその制作方法など多岐にわたりますが、私の場合、木の匙に製作を絞っています。元々は長野県木曾にある上松職業訓練校にて家具製作の勉強をしていました。卒業後、目当ての工房への弟子入りがうまくいかず、アルバイト生活を続ける中、人に頼まれて木のティースプーンを作ったのがそのきっかけでした。家具製作を学んでいたときには、匙やお皿など木の小物にはまったく興味を持ってませんでした。しかし、そうに思えてなかなかれつという良いものができあがらない難しさとおもしろさを感じることにになりました。それ以来もつと良いものができると匙にこだわり作り続けています。匙の材料には国産材から外材まで、色々な樹種を使っています。家具と違つて大きな材木を必要としな



しっかりと固定して玉切り練習

毎日メンテナンスと目立ってチェーンソーがぐらぐらと固定できなかったりするたためな

です。上手な人の切り方を見てみると、チェーンソーはしっかりと固定されています。そして切れた分だけ前に進む、というやり方で、追いつきも、玉切りも、枝払いでも同じ事です。固定できない方の枝払い

は、切り口がデコボコです。技が上達していく過程はリニアではなくノンリニアです。今までできなかった事がある日ふとできてしまふ。いわゆる壁を乗り越える、ということですね。そしてそのための早道は、チェックポイントをいくつか持っているか、という

ことではないでしょうか。のんびんだらりとチェーンソーを使うのではなく、自分の持っているチェックポイントを一とつずつ確認しながら伐倒をしていけば、失敗した時にも容易に修復ができるようになるでしょう。

私は木工職人です。一口に木工といえども、製作物やその制作方法など多岐にわたりますが、私の場合、木の匙に製作を絞っています。元々は長野県木曾にある上松職業訓練校にて家具製作の勉強をしていました。卒業後、目当ての工房への弟子入りがうまくいかず、アルバイト生活を続ける中、人に頼まれて木のティースプーンを作ったのがそのきっかけでした。家具製作を学んでいたときには、匙やお皿など木の小物にはまったく興味を持ってませんでした。しかし、そうに思えてなかなかれつという良いものができあがらない難しさとおもしろさを感じることにになりました。それ以来もつと良いものができると匙にこだわり作り続けています。匙の材料には国産材から外材まで、色々な樹種を使っています。家具と違つて大きな材木を必要としな

次回以降の予定

通年コース第12・13回

10月18・19日(金・土)

林道設計・間伐

森に通う路を設計しましょう。そして、それを歩道として開設してみます。山小屋に集合。

専門コース第4回開催

11月15・16日(金・土)

今年度最後の専門コースです。独力で伐倒ができる様になったでしょうか。

リレー通信



匙と木 森 金城 貴史

いので、気軽に色々な樹種を試すことができました。一番よく使うのは山桜です。硬い割には加工性がよく、粘りがあつて折れにくく、木肌の目が細かいのでよく切れる刃物で削り上げるとそれだけで艶が出ます。それ以外にも、栗や朴、楓、櫻、くるみ、椿や桑、桂などの国産材、ブラックチェリー、ブラックウォルナット、メイプル、チークなどの外材なども扱いますが、一つ一つの樹種にそれぞれ個性があり、また同じ樹種でも木によって、同じ木でも部分によって、驚くほどの違いがあります。

日々、たくさんの方に触れて製作していますので、着色や厚い塗装などがされてなければ、板をみれば何の木かだいたいわかります。しかしこれが板になる前の生きている樹の話になると、皆目見当がつかなくなつてしまうのです。板ならわかるが、樹のことはわからない。その状態であることの恥ずかしさや不自然さが自分の中でだんだんと大きくなつてきていました。話はそれだけではありません。国産広葉樹の供給が概して減少しているという情報は訓練校時代から耳にはしていましたが、実際に自分で材木屋に材を調達に行くようになると、その現実を現

場の方から直接に何うようになりません。少し大きな表現になります。良い材木は木材関係者で奪い合つていような状況です。米国やヨーロッパでは広葉樹の安定供給ができるように生産と伐採のバランスをとつた持続可能な森林管理が行われているそうです。日本の広葉樹に関しては私の勉強不足もあるかもしれませんが、そのような話は聞いたことがありません。木にかかわる仕事をやるものとして、そういった現実に対して何にもしていない居心地の悪さを感じ始めました。

こうして木材から木、そして森へと興味が深まってきました。関心が深まるほど何も知らない自分が浮き彫りにされてきます。頭でうんうん考えるより、まずは体で感じたいと、最初の一步の目標を、「まず森に入る、そして木を切り倒す」に設定しました。こうしてKOA森林塾のドアを叩くことになりました。森林塾の短期講座ではまさしくその目標を達成することができました。それ以外にも施業指針のたてかたやチェーンソーの整備のしかた等、基礎の部分からしっかりと教えていただきました。一番の収穫は、自分より長く生きてきて、自分よりずっと



大きな木を切り倒す感覚を何度も味わえたこと、手入れの行き届いた人工林の居心地の良さを感じられたことです。加えて人工林の厳しい現状を知ることができたのも非常に重要でした。森に近づくための第一歩としてKOA森林塾を選んだのは、間違いなかったと感謝しています。

また、森に入ること以外にもう一つ新たに勉強を始めたいことがあります。それはグリーンウッドワークといって、乾燥していない生の木を人力で割るところから始める木工の方法です。基本的に木工で使われる材木は、丸太を挽き割り板にしてから、人口乾燥機にかけるか、1〜2年自然乾燥させます。水分の多く残った状態で製品まで加工すると、加工後、木の中の水分量が変わることによって、割れたり、曲がったりしてしまつからです。また

丸太を挽き割るための大きな機械や、乾燥させるためのスペースなどどうしても大掛かりなものになってしまっています。一方、グリーンウッドワークでは大きな機械やスペースは必要ありません。直径30センチ弱の栗の木がちょうどした道具で簡単に割れていきます。大まかに割ったものを板や角材にするのも人力です。人力の足踏み木工くるくるなるものもあります。今まで大きな機械を使つての木工しか知らなかった私にとつて目からうろこの体験でした。大きな機械音に包まれて作業する従来の木工とは違い、作業自体に無理がなく、気持ちの良い加工法だと感じました。現在、ラダーバックチェアを製作している途中です。しかし、加工法自体の気持ちの良さや魅力に関してはとても素晴らしいものがあるのですが、それを趣味的にではなく仕事として取り入れるという視点にたつと少し話が変わって

きます。機械加工よりも時間はかかるし、体力も要ります。ただ木工の幅を土台から広げてくれるのは確実に、この技術をゆつくりと自分のものにしていきたいと考えています。自分の無知に対する居心地の悪さから、木と森に近づこうと動き出しました。まだまだ動き始めたばかりで、なんにも形にはなっていない。最終的にどうなれば自分が満足できるのかもよくわからないような状況です。単純に、そして極端に考えると、小規模でも良いので自分の山を持ち、森を管理しながら、その森の木を使い製作をしていくといった形にでもなるかと思うのですが、あまりにも一人よがりの仕事になってしまいうので、それ以外にも色々な可能性や、着地点があるのでと考えています。なにぶん森の入り口によく足をかけたばかりなので、今後引き続き森に入つていかなければ何にも変わりません。幸い今住んでいる奈良県も林業が盛んだった地域で、森も山も十分にあります。まずは森に入る機会を少しずつ増やす方向へと、色々な場所、集まりへと顔を出し、何年後になるかもわかりませんが、一歩ずつ、始末よく仕事ができる環境へと自分を運んでいきたいと考えています。

リレー通信

薪ストーブに関する エトセトラ 小原 義和

薪ストーブを導入して5年経ちます。

薪ストーブを導入して5年経ちます。最初まったく入れる気がなかった薪ストーブ。ハウスメーカーのイベントに行った時、なんともいえないその暖かさにやられてしまい、急いで見積りを出してもらい、その値段に驚きつつも当初予定していたガラストープから設計変更してもらい、カーテン代に手元に残しておいたお金を補填して地元駒ヶ根に家を建てました。

勢いで入れてしまった為、薪入手の伝手もなくストーブ屋さんに相談するとまずはチェンソーとの事。初心者でも長く使うものだからプロ機がいいと勧められたスチールのMS200を、その値段に驚きつつも購入し、カーテンのない家とともにその生活がスタートしました。

薪入手の伝手もなくストーブ屋さんに相談するとまずはチェンソーとの事。初心者でも長く使うものだからプロ機がいいと勧められたスチールのMS200を、その値段に驚きつつも購入し、カーテンのない家とともにその生活がスタートしました。

最初の年は森林組合から新材を買いました。イベントで針葉樹軽トラ1杯30

00円でした。(今じゃ5000円位する)その向かいにあるストーブ屋さんでイベントをやつていて針葉樹1束150円(だったと思う)御一人様50束限定つてやつをかみさんと100。次の日もやっていたので200束ゲット(今じゃ考えられない安さ)その年の薪を確保できました。買って来た薪材を玉切り。楽しい。

ね。ちなみに斧は毎年11月に行われるハウスメーカーのイベントで買いました。グレインスフォッシュ・ブルークスの445が最初の1本です。439、442と毎年1本ずつ増えていき今3本あります。最初はなかなか割れなかつたけど、今は自信あります。

あるボランティアで初めて薪を割る人がなかなか割れず1玉割っている間に私トラック1杯分割つちやいました。最初はみんなそうだけど、5年の経験つてすごい。

軽トラ買うと薪の話が来なくなりました。(そんなもんだよね)その年は3回位ハウスメーカー主催の森林ボランティアに出動しただけです。薪が足りない。ストーブ屋さんに相談すると林業屋さんを紹介してくれてそこから木を買いました。何でも良いから薪にする木が欲しいと連絡して集材場に行くといろんな種類の

ぶつとい木材が積まれました。35cmのバーよりもはるかに太く、なかには硬い木もあつてなかなか作業がはかどりませんでした。(今思えば目立って悪いんだけど)これではと思ひふらつとチェンソー屋さんに行くイベント中。モニターキャンペーン中で、ソーチェン



ご購入。恥ずかしなからアメ車です。いや〜いい。とってもいい。独特の乗り心地が癒されま

を1本サービス、アンケートに答えるとさらにもう1本、営業の強い押しもあり新ダイワの1145を買っちゃいました。また新の話が来なくなりまして。早く使ってみたいのに。林業屋さんに頼むことに。

調子いい。かみさんもMS200で玉切りしましたので作業効率がかなり上がりましたね。それにしても軽トラの出番がない。自分の車、かみさんの車、それに軽トラと3台有るけど出番の少ない軽トラを持っていくことが急にもつたない感じが2台に絞ろうと家族会議。お互いに軽トラには普段乗りたくない物別れに。自分の車がオイル交換の時期に。ディーラーに持ち込むと中古のピックアップトラックが有るじゃないですか。早速交渉。かみさんの車と軽トラを下取りに出し

命。今年の冬が楽しみ。薪もバツチリ。去年11月の例のイベントで手に入れたダッチオーブンで魚を焼きたい。見た目焼けたように見えな

源流地帯をなす上村と木澤村2ヶ村が担当で、JR飯田線の平岡駅から20km余りの区間は1日2往復の定期バスのほかには交通手段のない時代のことである。

『大学』なるものに全く理解を抱いていなかった私は、とつさの対応に戸惑いながら、学歴が専門学校出である事や、脂の乗り始めたAg活動の事など挙げ、お断り申し挙げることを伝えた。先生は「残念だが」とおっしゃりながら思いのほかあっさり

戦時中の満州に渡り、敗戦まで大陸での営林署長を勤めていたこともあって、こうした酒宴は日常的に行われていたようです。その後信大からの連絡は途絶えていたが、8月の益過ぎ、農専時代の恩師らから教官充足の緊急性が伝えられ、強力な応募を勧められたが、当初の辞意を翻すことは出来なかった。 島崎 洋路

す。早速新運びに使えるか検証する為林業屋さんへ電話。荷台の位置がちよっと高いけど何とかなりそう。荷物を運んだ時の車の変化が少ない。いいぜ。伯父の山に行つてみる。デカッ。やっぱりでかい。何とか入れるけどUターンは無理。そんなに山奥での森林ボランティアは今までなかったから大丈夫でしょう。ひと安心。

そして今年。森林ボランティアで薪集め。雨天中止になることなく順調に集つてます。そして森林塾。チェンソーが切れる、切れないって事が分かった。切れないチェンソーが危ないって事が分かった。チェンソー使

コラム "日本林業の行方" その⑤ 信大への道

初任者研修を終えた年の暮れまでには、各Agごの担当市町村(下伊那地方事務所管内は当時1市4町16村で構成されていた)の割り当ても済まされ、それぞれ担当市町村の役場や森林組合などの打ち合わせも軌道に乗り始めていた。新米Agにとつてはそのほとんどは初体験のことばかりで、普及というよりも己の学習に追われることのほうが多かったように思い出される。

私を通称『遠山郷』と言われた天竜川の支流、遠山川の

1週間後の土曜日の夕刻、大倉先生ご夫妻の再度の訪問を受けた。用件は先週の御礼とのことで、お土産としてお酒2本をいただいた。先生はお子さんがなく、外出はほとんど奥さんご同伴とのことでした。中央との交通事情をはじめ住宅や食料事情も

ままならぬ故、教官の充足が滞っていることなど話されたが、私の人事についてはほとんど触れず、お酒盛りは前回の復習そのものでした。先生は京都帝国大学林学科を卒業後、

投稿大歓迎。ご意見、ご質問は事務局まで
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp